

平和祈念展示資料館 特別展示

# 南洋の島々を描く

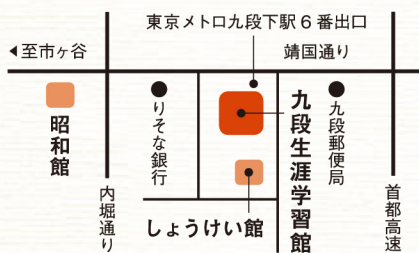
二人の軍人とそのまなざし



満川元行《マナム島》



野村克己《ナイボルの海浜》



#### 会場アクセス

東京メトロ東西線・半蔵門線、  
都営地下鉄新宿線「九段下」駅下車 6番出口前

※九段生涯学習館には駐車場がありません。近隣のコインパーキングをご利用いただくか、公共交通機関でご来場ください。

九段生涯学習館2階 九段ギャラリー  
(東京都千代田区九段南 1-5-10)

平成31年 2月7日[木] → 2月13日[水]

10:00-19:00

主催：平和祈念展示資料館(総務省委託)

後援：千代田区

協力：昭和館、しょうけい館

入場  
無料

# 南洋の島々を描く 二人の軍人とそのまなざし

平和祈念展示資料館では、九段ギャラリーの特別展示として「南洋の島々を描く 二人の軍人とそのまなざし」と題し、約60点の水彩画などを展示します。

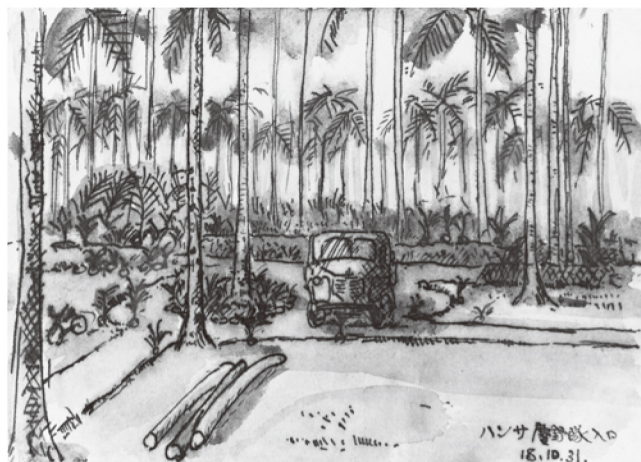
山口県出身の野村克己氏は、転戦を続けた中国や東南アジアでは風景を柔らかなタッチで、昭和18年以降は、インドネシアの島々の住民や風物、海岸の風景などを温かなまなざしで描いています。

栃木県出身の満川元行氏は、マラリアを媒介するハマダラ蚊の学術スケッチと同じように、ペンで細かく風景を描いた水彩画や、鉛筆と水彩によるゆったりとした表現の絵を描いています。

二人とも絵を描く趣味を持ち、軍務の合間に水彩画を描いていましたが、昭和19年2月以降は、戦局の悪化などから描くことはできませんでした。二人の絵には戦闘の場面はなく、南洋の島々の穏やかな景色が描かれ、いずれの作品にも日付が付されています。命の危険のある中で、日記をつけるように絵を描いていたのかもしれません。



野村克己〈サンパン舟〉



満川元行〈ハンサ慶野隊入口〉

## 野村 克己氏の略歴

明治45(1912)年、山口市に生まれる。京都帝国大学卒業後就職。昭和15(1940)年、山口の歩兵第42連隊に応召。中国や東南アジアを転戦、警備任務に就く。昭和18(1943)年、インドネシアの島々を転々とし、昭和19(1944)年から終戦まで、ニューギニア島西方のアラフラ海にあるタンバル諸島で任務に就く。

## 満川 元行氏の略歴

大正5(1916)年、栃木県鹿沼市に生まれる。東京帝国大学医学部を卒業後、昭和17(1942)年、宇都宮陸軍病院に陸軍衛生部見習士官として応召。昭和18(1943)年、第44兵站地区隊の軍医としてパラオ島に駐留。同年7月に東部ニューギニアのハンサ基地に移動。終戦まで東部ニューギニアで任務に就く。

## 昭和館、しょうけい館との連携企画

九段生涯学習館に近接している昭和館、しょうけい館では、この特別展示と連携した企画を実施します。

### 昭和館

ニュースシアター(1階)での復員に関するニュース映画などの上映のほか、図書室(4階)では、関連書籍の紹介コーナーを設置します。

千代田区九段南1-6-1 Tel:03-3222-2577

### しょうけい館

南方で戦傷病者となった方の証言映像を上映するほか、体験者の関連図書を1階の図書閲覧室で紹介します。

千代田区九段南1-5-13 ツカキスクエア九段下  
Tel:03-3234-7821